

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	EMCシンポジウム開催事業	会計	一般会計	事業No.	494	施策順No.	11-054
		事業種別	政策・その他	予算科目	7-1-5-10-12		
政策	1 多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり			課等名	工業課		
施策	11 事業者自らが実施するパワーアップ活動			事業期間	開始	12	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	地元EMC関連企業技術者						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		EMC関連企業数	20	20	20	25	30	
	意図	EMC技術が向上し、新製品や新技術が生まれ、企業が発展する。						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	EMCセンターの地元利用企業数	10	12	15	20	20	20	B
	EMCシンポジウム及び関連事業参加者数	100	98	140	100	87	80	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	講演内容や講師の決定が遅れ、PR期間が短かったため、参加者が例年より少なくなりました。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	飯田EMCセンターを核にした研究テーマ別発表の機会を設けることで地域内外へのEMC対策技術の浸透を図ることを目的として開催する。電磁波影響防止技術に関して、学会や業界で指導的な立場にある講師を招いて年1回、シンポジウムを行う。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 第11回EMCシンポジウムIIDA2010の開催 期日:2010年10月28日～29日 2 EMC委員会の開催	1 参加者募集チラシ配布枚数 2 委員会開催回数	1 700枚 2 5回
23年度実施計画	1 第12回EMCシンポジウムIIDA2011の開催 期日:2011年10月27日～28日 2 EMC委員会の開催 3 EMC研究会の立ち上げ EMCをテーマにした研究を行う。また、今後のEMCセンターのあり方や将来について検討する。	1 参加者募集チラシ配布枚数 2 委員会開催回数 3 研究会開催回数	1 1,000枚 2 4回 3 3回

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)			特定財源内訳、補足事項
		22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	
	国庫支出金				
	県支出金				
	起債				
	その他				
	一般財源	428	428	400	
	計(A)	428	428	400	
	正規職員所要時間		50		
	臨時職員等所要時間				
	人件費計(B)		179		
	トータルコスト A+B		607		

4 事業に対する市民や議会の意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・施策展開においては、世界同時不況の影響を考慮されたい。(平成20年度 産業経済委員会 決算認定提言書)</li> <li>・すべての取り組みにおいて「環境」の視点をもって取り組まされたい。(平成20年度 産業経済委員会 決算認定提言書)</li> </ul>
---

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	事業者等が出荷額等を高める活動をする	施策の成果指標又はムトス指標	既存事業者の出荷額(工業)飯田下伊那(億円)
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	・日本全国より参加者があり、地域内外にEMC技術が浸透して来た。EMC技術の習得が、新製品開発に繋がり、企業の出荷額等の増加になる。		
	後期に向けた課題	・EMC技術を更に高めるため、シンポジウムだけでなく、EMC研究会を立ち上げ、シンポジウムの方向性やEMCセンターの今後について検討する。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	・EMC技術は、専門分野であるため、講演講師に限られるが、参加者が聞きたいと思っている最新テーマを選択し、講演してもらった。		
	後期に向けた課題	・講演を断られるケースが増えているため、講師選定に苦労している。講演テーマの選定方法について検討する必要がある。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	・シンポジウムの会場をシルクホテルから飯田信用金庫に変更したことにより、会場費が削減された。		
	後期に向けた課題	・飯田信用金庫との共催として位置付け、会場費を免除してもらうよう検討中。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	・受益者負担の原則から、参加者より、参加費を頂いて開催しているが、交通の便や全国からの集客を考えると、参加費の値上げは難しく、金額は妥当と考える。		
	後期に向けた課題	・参加費を高くすることにより、参加者のニーズによるテーマや講師の選定を行い、更なる集客に努める。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	①シンポジウムに地元EMC関連技術者が多く参加するようになり、当地域での開催の認知度が高まった。 ②当初は、市が主導して進めていましたが、地元企業の技術者に声を掛けて、EMC委員会を立ち上げ、委員会が中心となって進めるようになった。		
	後期に向けた課題	・更に地元企業にPRし、参加を促すとともに、シンポジウムだけでなく、EMC技術を高める研究会を立ち上げ、技術の構築を図って行きたい。		
全体を通じて	4年間の振り返り	・当地域での開催が年間計画の中に位置付けられ、全国的にも知られるようになった。また、地元企業にもEMC技術が浸透しつつある。		
	後期に向けた課題	・関西で開催しているセミナーが縮小される中、当地域での認知度を更に高め、全国各地より多くの技術者を集客できるよう努力する。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ある	対象や意図を修正する必要がありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要がありますか	ある
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------